

解答例または出題意図

設問 I

平成 29 年 3 月告示の学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質能力を育むために、各教科等の指導に当たっては、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」（「小学校学習指導要領」p.22）に配慮し、「各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること」（「小学校学習指導要領」p.22）を求めている。ここに示された「見方・考え方」は、教科の本質と言われることもあり、「深い学び」の視点において極めて重要で、学びの「深まり」の鍵となるものとして中央教育審議会の答申に盛り込まれた表現である。本設問は、こうした「見方・考え方」について、その基本を問うと共に、それを組み込んだ授業を構想する力を見るものである。

【問 1】に関しては、「見方・考え方」について、具体的な校種と教科を想定し、その教科固有の「見方・考え方」の基本的な知識を問う設問になっている。物事を、どのような視点で捉え、どのような考え方で思考していくのかについて記述されていることが望ましい。

【問 2】に関しては、【問 1】で解答した教科の「見方・考え方」を児童生徒が働かせ、「主体的・対話的で深い学び」を実現していく一時間の具体的な授業を構想し、（1）授業の目標、（2）重点を置く評価の観点と評価規準、（3）本時の展開を定めることができるかを見る設問になっている。「見方・考え方」を働かせるための課題の提示や発問の工夫、「見方・考え方」に基づく話し合い等が記述されていることが望ましい。

解答例または出題意図

設問Ⅱ

総合的な学習（探究）の時間について問うことを通して、学習指導要領（平成 29・30・31 年改訂）についての理解や今日の学校教育で求められる学習の在り方や育てたい資質・能力への理解や考えを引き出すことを意図している。

【問 1】においては、総合的な学習（探究）の時間の目標について理解し、根拠や理由を明らかにしながら自らの考えを述べることができるかを見る。

今日の社会状況（明確な解決方法のない様々な問題がある状況、様々な考え方が衝突する状況、情報化社会の進展、SDGs に関わる事柄（多様性、経済的な格差、環境・気候変動など）や教育が抱える諸課題に触れ、学習指導要領にある言葉や考え方（自ら課題を見つけ…主体的に判断し、よりよく問題を解決する、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む…）等を援用し、自らの考え方を論理的に記述できることが望ましい。

【問 2】においては、【問 1】での回答を踏まえ、その学習を進めるために求められる教師の学習支援の在り方や役割、求められる力について概括し、その上で、自らの現状をどのように捉え、今後取り組むべきことをどのように把握しているかを問うている。

昨今の学力観、学習観の変化を捉え、今後の教師の役割について、自らに引き寄せて具体的に考えを記述できることが望ましい。